

事業評価シート

担当課・室長：研究調査室長

事業名	調査研究の推進（地球環境に関する調査研究等の推進）
上位施策名	試験研究、監視・観測等の充実、適正な技術の振興等
1 事業の概要	<p>競争的資金である地球環境研究総合推進費により、様々な分野における第一線の研究者の総力を結集して、学際的、省際的、国際的な観点から、地球環境保全の為に産学官による総合的な調査研究を、政策的な観点を重視した上で実施している。</p> <p>関係行政機関等の試験研究に係る経費のうち、特に地球温暖化問題の解決に資する研究に関するものについて、政府一体となった官の研究の総合的強化を環境省の調整のもとで効率的に行うため、平成 13 年度より地球環境保全試験研究費を創設した。</p> <p>革新的な政策手法の開発や環境対策の政策づくりのための政策的、実践的研究（＝戦略研究）による持続可能な開発の実現を目指して、地球環境戦略研究機関（IGES）への支援を行う。</p>
2 進捗状況	<p>地球環境研究総合推進費については、各種の地球環境問題に対し、毎年約 40 課題の調査研究を実施しており、平成 13 年度も、13 の新規課題を採択した。課題の採択及び成果に対しては、外部有識者による評価が行われ、研究計画の見直し等に反映されるとともに、HPを通じて一般にも公開された。研究の成果は報告書としてまとめられ、行政として国内外の地球環境保全施策に活用されるとともに、一般に向けてもHPにより公開されている。</p> <p>地球環境保全試験研究費は、平成 13 年度より地球温暖化の防止に資する 11 課題の研究が開始されたところであるが、今後は地球環境研究総合推進費と同様に外部有識者による評価を行い、研究計画の見直し等への反映を図る。</p> <p>IGESにおいては、第 1 期（平成 10 ～ 12 年度）の戦略研究の最終成果物を、政策提言等の形で取りまとめ、アジア太平洋地域の政府機関等に提示した。現在、第 2 期（平成 13 ～ 15 年度）の活動を開始したところ。</p>
3 評価	<p>地球環境研究総合推進費の成果は、時宜に応じた地球環境問題への科学的見地からの対応に活用されている。特に地球温暖化分野に関しては、京都議定書の円滑な実施、IPCC 第 3 次評価報告書の作成（日本人執筆者の 52 %が推進費の研究代表・参画者である）やインベントリーガイドライン改訂への科学的裏付けなどに貢献しているほか、他の分野においても、研究の実施と成果を通じて、条約やこれに基づく国際的な取組等に対する科学的側面からの貢献を行っている。今後は、政策への反映をより明確に打ち出すべく研究評価や研究進捗管理の強化を図るほか、行政として主導的に取り組むべき戦略的な大規模課題の創設や、新科学技術基本計画を受けた間接経費の本格的導入などの拡充を通じ、政策ツールとしての機能強化と競争的研究環境の一層の創出を図っていく必要がある。</p>

	<p>地球環境保全試験研究費は、地球環境の保全を関係行政機関の適切な役割分担の下で着実に進めていくため、今後とも、中長期的かつ計画的な観点を重視した研究の拡充（IPCC 第 4 次評価報告書以降の国際的研究活動への貢献やその後の対応等）を図っていく必要がある。</p> <p>I G E S の第 1 期の成果については、これまでに C O P 4、C O P 5 やエコアジア、E S C A P 大臣会合などの場で発表され、高い評価を得ている。</p> <p>今後、地球環境問題の動向、新しいニーズ等を踏まえて策定した「第 2 期戦略研究計画」に基づき、大きく 6 つのプロジェクトを実施することとされており、国際機関化に向けた取組を強化する必要がある。</p>
<p>4 予算事項名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境研究総合推進費 ・地球環境研究計画策定等経費 ・地球環境保全試験研究費 ・地球環境保全試験研究推進経費 ・地球環境戦略研究機関拠出金
<p>5 対応副施策等</p>	<p>「調査研究、監視・観測等に係る国際的な貢献と連携の確保」 （ - 9 . 国際的取組に係る施策 （ 1 ）地球環境保全に関する国際的な貢献と連携の確保 - 調査研究、監視・観測等に係る国際的な貢献と連携の確保）</p>